

2019年9月11日

日本共産党下関市議団
団長 桧垣 徳雄 様

下関市議会議員 片山房一

出張報告書

下記のとおり、出張しましたので報告します。

記

期 日 2019年8月24日～8月26日

出張先 国立大学法人 奈良教育大学、奈良市生涯学習センター

用 務 第59回社会教育研究全国集会（奈良集会）参加のため

研修の概要

- 1日目 第1全体会 基調提案と課題別学習会 ①
- 2日目 分科会 「奈良発！地域づくりと社会教育」 ②
- 3日目 第2全体会 対談「『地域づくり』と社会教育」 ③

内容の概要

①について

基調提案では、戦後の社会教育の歴史を俯瞰しながら、社会教育の活動が、地域の中で生活課題と向き合う学習や地域づくりとどう関わり合うかの課題が提起された。

課題別学習会は、「公立社会教育施設の首長部局移管と法改正問題～自治体社会教育の政策転換を危惧する」をテーマにした学習会に参加した。下関市でも議論されることもなくスポーツの部門が教育委員会から首長部局に移管されている。今後も文化財や図書館など他の分野でも移管が予測される。戦後の社会教育が蓄積してきた法制度や市民の学習権保障の考え方、教育行政の独自性が揺らいでいる現状をどうとらえ、対案をどう提示していくか参考になる議論が行われた。

②について

18の分科会の中から「奈良発！地域づくりと社会教育」の分科会に参加した。

今、新たな「地域づくり」が、少子高齢化、過疎化の進展、人口減少社会を背景に「地方創生」の名で進められている。この動向とは別の視点で、住民自らが主体的に地域づくりに取り組む、奈良県内の地域づくりの4つの事例の報告があった。いずれの事例も、地域の歴史や文化の継承、地域の未来をともに考え、つくろうと奮闘する住民の自主的、主体的な取り組みだった。

討論では、地域づくりと社会教育行政の関係が語られたが、財政難を理由に施設の統廃合や職員の減少、指定管理者制度の導入など、行政の後退の中で、地域づくりを支援する体制が取れない現

状が明らかになった。

③について

第2全体会では、「『地域づくり』と社会教育」をテーマに、奈良女子大学の中山徹教授と北海道訓子府町の菊池一春町長の対談が行われた。

長年社会教育に取り組んできた菊池町長の社会教育と地域づくりを結びつけた町づくりは社会教育の可能性を感じさせるものだった。中山徹教授の現在の地方自治の国の動向の報告は、地方自治、住民自治と民主主義が、今大きな岐路に立っていることを鮮明にした。

〔所感〕

下関市でも、旧市町の社会教育行政の平準化が行われ、それぞれの地域の歴史を背景とした特色ある活動が少なくなって、いわゆる貸し室が社会教育の仕事であるかのようにになっている。さらに「公共施設等総合管理計画」によって、社会教育施設の統合・複合化が行われようとしている。

これらの動きは、自治体における生涯学習社会の中心的な役割を担う社会教育行政の重要性を全く考慮しないものである。

住民自治の観点から、地域づくりをどのように展開していくべきなのか、そこに社会教育はどのような役割を担うべきかという課題を検討する材料をたくさん得ることが出来た研修だった。

以上報告します。

・申込み → 参加者あてにハガキが来ると
 ・基本的に希望、分科会に入るほうの会場を用意するところ

第59回社会教育研究全国集会（奈良集会）ご案内

まなぶ NARA・であう NARA・ひろがる NARA ～未来を語りあえる社会教育をめざして～

第59回社会教育研究全国集会は、奈良で開催します。2007年に大阪の阪南地域・奈良県・和歌山県のネットワークの力で開催した「阪奈和集会」から、実に12年ぶりの関西での開催です。そして、奈良で実行委員会を結成して開催するのは、初めてのことです。

阪奈和集会は、多くの地域の実践が掘り起こされ交流された集会でした。それから12年を経て、関西のネットワークを生かしながら全国集会が開催できる蓄積をしてきた奈良の社会教育に、全国が注目しています。

奈良における、都市部への人口集中と山間地域の過疎化の問題、女性の社会参加の難しさ、過熱した教育と子どものストレスなどは、全国の多くの地域とも共通する課題ですが、奈良にはそのことに取り組む住民の多様な活動があります。また、同和教育をはじめとする差別解消のための取り組みは、今日ではさまざまな人権問題に対応する素地を地域につくり出しています。さらに、財政状況が厳しい中でも社会教育の充実をめざし、指定管理者制度のもとで奈良市生涯学習財団などが多様性に富む社会教育実践を創造してきた経験が奈良にはあります。

このような課題と取り組みをもつ奈良で、この奈良集会を契機として、人間らしい暮らしのために学び、人がつながることを大切に、それを地域づくりに広げようとしています。そのような奈良の実践と全国各地の実践を交流させることで、これからの社会教育の展望が描けるのではないかと考えます。全国各地から多くのみなさんの参加をお待ちしています。

期 日 2019年8月24日（土）・25日（日）・26日（月）

会 場 奈良教育大学（奈良市高畑町）・奈良市立中部公民館（奈良市上三条町23番地の4）ほか

主 催 第59回社会教育研究全国集会（奈良集会）実行委員会
 社会教育推進全国協議会

共 催 国立大学法人奈良教育大学

後 援 奈良県教育委員会、奈良県公民館連絡協議会、奈良市、奈良市教育委員会（五十音順）

日 程 （プログラムにより会場が異なりますので、当日配布の資料・掲示等も併せてご参照ください）

日時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
24日 （土）					受付	第一全体会	休憩	課題別学習会	休憩	全体交流会			
25日 （日）		受付	分科会	昼食		分科会		休憩		この指とまれ （自由交流会）			
26日 （月）		受付	第二全体会		※全国委員会								

参加費 集会参加費（集会資料集および報告書を含む） ※高校生以下は参加費無料

一般 5,000円（ただし奈良県内在住・在勤の方は3,000円）

学生・院生 3,000円

1日のみの参加 3,000円

全体交流会費 一般 4,000円 学生・院生 3,000円